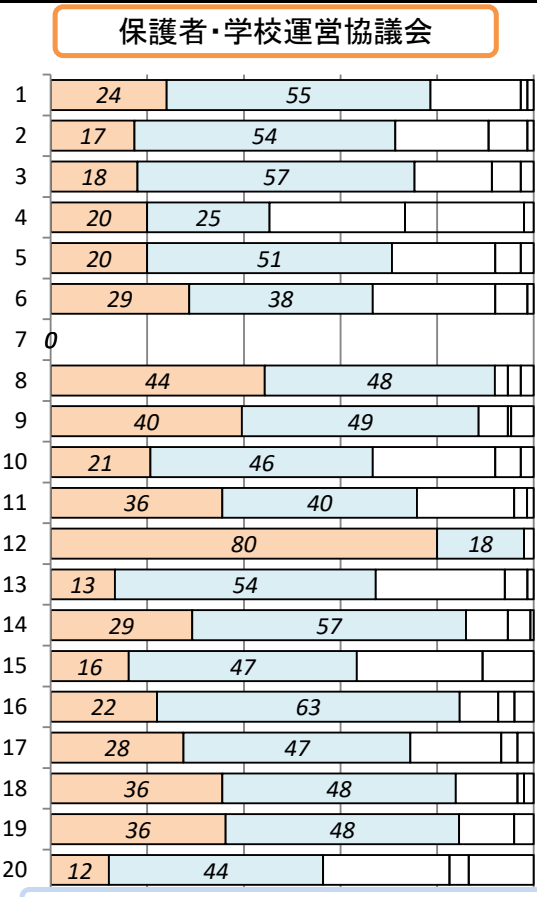
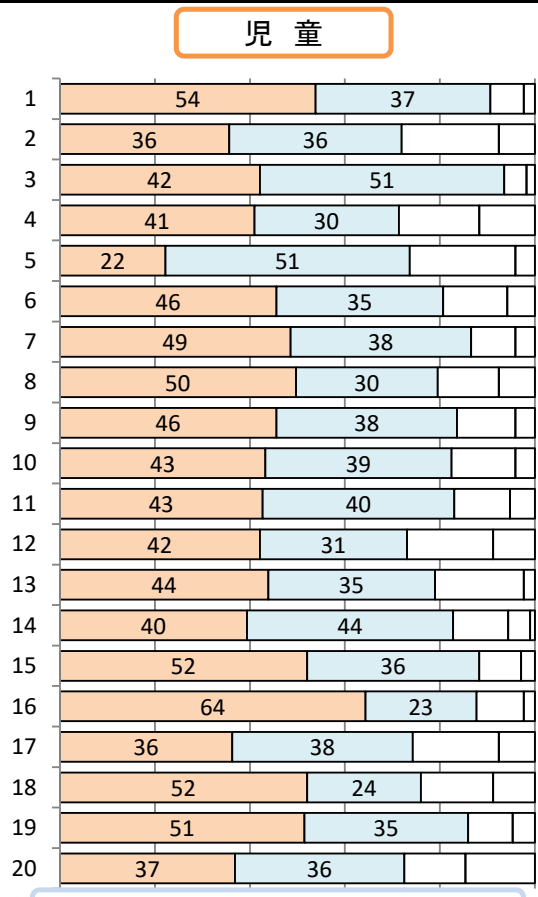


【境谷小学校】 令和3年度後期学校評価アンケート結果

○目指す子ども像(洛西中学校ブロック)『夢の実現に向けて、共に楽しく学び、たくましく伸びていく子の育成』	
重点目標(児童生徒の共通する課題より)	(1) コミュニケーション能力を育成するための“言語活動”を充実する～つながる・深める・伝え合う～ (2) 児童生徒が主体的に活躍できる場面を設定し、自己肯定感や自己有用感を高める。
○境谷小学校めざす子ども像	『自ら学び つながり 高め合う境谷の子』～自愛と慈愛に満ちた子の育成～ 1. 粘り強く挑戦する子 2. 自分も友だちも大切にする子 3. いのち・健康を守る子

質問項目	
確かな学力	① 学校の勉強はわかりますか。
	② 自分の意見や考えを話すことができていますか。
	③ 人の意見や考えをしっかりときくことができていますか。
	④ 進んで本を読むことができていますか。
	⑤ 毎日、忘れ物をせずに、学習の準備をすることができていますか。
	⑥ 毎日、家庭学習をすることができていますか。
	⑦ 授業や学校生活の中でがんばったことを、先生はほめてくれますか。(児童のみ)
豊かな心・健やかな体	⑧ 学校に楽しくかようことができていますか。
	⑨ 学校では、先生や友だちから大切にされていると思いますか。
	⑩ 地域の人、先生たち、友だちに進んで気持ちのよいあいさつができていますか。
	⑪ 早寝・早起きをしたり、朝ごはんをきちんと食べたりしていますか。
	⑫ 自分にはよいところがあると思いますか。
	⑬ 難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦していますか。
	⑭ 学校のきまりや約束を守ることができていますか。
学校・家庭・地域との連携	⑮ 自分から進んでそうじや係活動ができていますか(高:掃除や係活動、委員会活動ができていますか)
	⑯ 学校からのおたよりをお家のの人に見せていますか。
	⑰ わからないことや、困っていることを先生に相談することができていますか。
	⑱ お家の人に、学校でのできごとを話していますか。
	⑲ お家の人や地域の人からほめられることがありますか。
	⑳ 地域の人との交流(おはなし会・少年輔導の行事)やゲストティーチャーとの交流、PTA行事を楽しみにしていますか。



	そう思う		大体そう思う		あまり		思わない		分らない	
	児童	大人	児童	大人	児童	大人	児童	大人	児童	大人
①	54	24	37	55	7	19	2	1	0	1
②	36	17	36	54	20	19	8	8	0	1
③	42	18	51	57	5	16	2	6	0	3
④	41	20	30	25	17	28	12	25	0	2
⑤	22	20	51	51	22	21	4	5	0	3
⑥	46	29	35	38	13	25	6	7	0	1
⑦	49	####	38	####	9	####	4	####	0	####
⑧	50	44	30	48	13	3	8	3	0	3
⑨	46	40	38	49	12	6	4	1	0	5
⑩	43	21	39	46	13	25	4	5	0	3
⑪	43	36	40	40	12	20	5	3	0	1
⑫	42	80	31	18	18	2	9	0	0	0
⑬	44	13	35	54	19	27	2	5	0	1
⑭	40	29	44	57	12	9	5	5	0	1
⑮	52	16	36	47	9	26	3	11	0	0
⑯	64	22	23	63	10	8	2	3	0	4
⑰	36	28	38	47	18	19	8	3	0	3
⑱	52	36	24	48	15	13	9	1	0	2
⑲	51	36	35	48	9	11	5	0	0	4
⑳	37	12	36	44	13	26	15	4	0	13

※単位は%

「確かな学力」 (アンケート番号①～⑦)

・今回のアンケート結果をもとに、学力向上に向けて、以下のことに重点を置いて取組を進めたいと考えています。

＜1＞ 基礎的・基本的な知識・技能の定着

☆①の質問では、子どもたちの91%が「そう思う」「大体そう思う」を回答しています。前期に引き続き、高い数値を示しています。また、前期に比べ、「そう思う」を回答した子どもの割合が高くなっており、より学びを実感している子どもが増えている様子がうかがえます。一方、「あまり思わない」「思わない」を回答した子どもの割合は、4年生以上で高まってきていることも明らかとなっています。子どもたち一人一人の学びの充実を目指し、引き続きより良い授業づくりを進めていきます。

＜2＞ 忘れ物をしない準備の習慣化を

☆確かな学力の項目で「そう思う」の回答が最も低いのが、⑤の質問でした。学習の準備が十分できていない、と感じている子どもたちが多いようです。「そう思う」を回答した保護者の方の割合も20%となり、やはり低い傾向がうかがえます。学校で集中して授業に臨むためにも、忘れ物をしないようにすることは当たり前の習慣として身につけなければなりません。学校・家庭で連携し、忘れ物をしない習慣を身に付け、自分の学びの質を高めていってほしいと思います。ご家庭でも今一度お声かけいただきますよう、お願いします。

＜3＞ 授業や学校生活の頑張ったことについて

☆⑦の質問に対し、「そう思う」「大体そう思う」を回答した子どもの割合は87%となりました。肯定的な回答をした子どもたちの割合が、前期よりも4ポイント上昇しました。子どもたち自身、頑張ったことや努力したことを評価してもらっていると実感しているようです。子どもたちは様々な場面で自分たちの力を伸ばそうと頑張っている姿がみられます。今後も子どもたち一人一人の努力や頑張った姿、成果に目を向け、子どもたちを適切に評価していきます。

「豊かな心・健やかな体」 (アンケート番号⑧～⑮)

・今回のアンケート結果や、学校行事等を振り返り、以下のことに重点を置いて取組を進めたいと考えています。

＜1＞ 学校生活の充実

☆⑧の質問では、子どもたちの80%、保護者の92%が「そう思う」「大体そう思う」を回答しています。「そう思う」を回答した子どもの割合が前期よりも高くなっています。また、肯定的な回答をした保護者の方の割合も、前期より高くなっています。日々の学校生活はもとより、コロナ禍の中で実施してきた、体育参観やペア学年での活動、5・6年生の宿泊学習、境谷SHOW♡TIMEなどの学校行事を通じ、子どもたちは学校生活が充実したと感じていたのではないかと考えます。また、⑨の質問でも、「そう思う」「大体そう思う」を回答した子どもの割合が前期よりも高まっています。前期にもお伝えしております通り、自分自身が学校で友だちから、先生から大切にされていることは、と実感できることは、学校生活を充実したものにするためにとても重要です。前期以上に、子どもたち一人一人が自分のよさを教員・友だちに認められる場になってきていることが、学校生活の充実につながっていると考えられます。今後も子どもたちの学校生活が充実したものとなるよう、実践を重ねていきます。

＜14＞ きまりを守る子の育成

☆⑭の質問では、子どもも保護者も、「そう思う」「大体そう思う」の割合が前期よりも低くなりました。特に子どもの回答では、肯定的な回答を示した割合が前期よりも9ポイントも低くなっています。学校のきまりはただあるのではなく、みんなが気持ちよく生活を送ることができるようにするためにあります。つまり、学校のきまりを守ることは、みんなが気持ちよく生活していくためにとても大切です。学校は集団で生活をする場所です。自分さえよければ、という考えをもっていると、周りの人のことが見えなくなってしまう、きまりを守ることを忘れてしまいます。一人一人がしっかりときまりを守り、みんなが気持ちよく生活を送ることができるよう指導していきます。

「学校・家庭・地域との連携」 (アンケート番号⑯～⑳)

・これまで、学校・家庭・地域の連携を図り、「開かれた学校づくり」に対してご理解いただき、大変うれしく思っております。今年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた緊急事態宣言の発出や、まん延防止等重点措置の適用などによる影響から、例年行っている行事等が中止となったり延期したりすることが多々ありました。その中で感染防止対策を徹底したうえで可能な活動を適宜実施してまいりました。今後とも、PTA、地域の方々との連携をより一層深めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

＜1＞ 悩みや困りの相談

☆質問⑰では、「そう思う」「大体そう思う」を選択した子どもの割合が前期に比べわずかではありますが増加しました。一方、高学年の回答については、前期同様、低い状況が続いております。子どもたちが自分たちの悩みや困りを打ち明けることができるよう、また、教職員も子どもたちの悩みや困りにより気づくことができるようにしていきたいと思います。また、質問⑱では、保護者の「そう思う」「大体そう思う」の回答した割合が前期よりも高くなっています。ご家庭で子どもたちのお話に耳を傾けていただいていることがわかります。ご家庭でも学校の様子に耳を傾けていただき、子どもたちの悩みや困りなどに気づかれましたら学校にご連絡いただき、学校と家庭で共に考えていきたいと思ひます。

＜2＞ 地域の方との交流や行事の実施

☆⑳の質問では、「そう思う」「大体そう思う」を回答した保護者の割合が50%ほどとなりました。2学期以降も、まん延防止等重点措置の適用等に伴い、様々な活動が制限されましたが、その中でも可能な活動を対策を講じながら行ってきました。しかし、地域の方や外部講師を招いての授業や行事を実施することが難しかったこともあります。コロナ禍の中でも感染症対策を十分にいたうえて、子どもたちの安全安心を第一に考え、充実した活動の在り方を模索していきます。